

憲法東京共同センター・東京憲法会議共催

「秋の憲法学習交流集会」



日時: 2026年9月4日(金)

18:30~20:30

場所: けんせつプラザ東京5階会議室
(オンライン併用)

〒169-0074 新宿区北新宿 1-8-16



講演: 「自民党政権の問題点と
目指すべき社会のあり方」

参加費: 無 料

ZOOM 情報 ※上限 300 アクセス

ID: 891 6945 1489

Pass: 260904

URL

<https://us02web.zoom.us/j/89169451489?pwd=JUC5wErkNgDwExpNVdy2PIrkuF3wxy.1>



講師: 本田由紀氏

東京大学大学院教育学研究科教授

／日本学術会議連携会員／日本教

育学会会長

プロフィール

1964年12月24日、徳島県生まれ、香川県育ち。東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。博士(教育学)。日本労働研究機構研究員、東京大学社会科学研究所助教授等を経て、2008年より現職。

専門は教育社会学。教育・仕事・家族という3つの社会領域間の関係に関する実証研究を主として行う。特に、教育から仕事への移行をめぐる変化について指摘と発言を積極的に行っている。

主な著書に、『若者と仕事』(東京大学出版会)、『多元化する「能力」と日本社会』(NTT出版、第6回大佛次郎論壇奨励賞)、『「家庭教育」の隘路』(勁草書房)、『軋む社会』(河出文庫)、『教育の職業的意義』(ちくま新書)、『学校の「空気」』(岩波書店)、『社会を結びなおす』(岩波ブックス)、『もじれる社会』(ちくま新書)、『教育は何を評価してきたのか』(岩波新書)、『「日本」ってどんな国?』(ちくまプリマー新書)、『「ニート」って言うな!』(共著、光文社新書)、『労働再審1 転換期の労働と「能力」』(編著、大月書店)、『大卒就職の社会学』(共編著、東京大学出版会)、『現代社会論』(編著、有斐閣)、『文系大学教育は仕事の役に立つのか』(編著、ナカニシヤ出版)、『文系大学生は専門分野で何を学ぶのか』(編著、ナカニシヤ出版)、『「東大卒」の研究』(編著、ちくま新書)、『岩波新書で「戦後」をよむ』(共著、岩波新書)、『危機の中での若者たち 教育とキャリアに関する5年間の追跡調査』(共編著、東京大学出版会)、『教育社会学のフロンティア 1 学問としての展開と課題』(共編著、岩波書店)、『国家がなぜ家族に干渉するのか—法案・政策の背後にあるもの』(共編著、青弓社)、『教育の社会学』(共編著、放送大学教育振興会)、『進学校の進路選択とジェンダー』(共編著、大月書店)、『平成史講義』(吉見俊哉編、共著、ちくま新書)、『日本のオルタナティブ』(共著、岩波書店)、『保育の質を考える』(近藤幹生他編著、共著、明石書店)、『自助社会を終わらせる』(宮本太郎編、共著、岩波書店)ほか。

〇問い合わせ先 憲法東京共同センター(事務局: 東京地評)

TEL: 03-5395-3171

MAIL: move@chihyo.jp